

ACEWVG

ASIAN CAPTIVE ELEPHANT WORKING GROUP



ゾウの飼育についてよくある質問

1 どうしてゾウを鎖でつなげておく必要があるんですか？

鎖でつなぐことは、囲い地や檻を使わない、東南アジアにおける伝統的手法であり、ゾウを管理するうえで重要な役割を持ちます。また、様々な危険を引き起こしかねない大型動物を管理するうえで、最もシンプルかつ安全な道具でもあります。とりわけオスのゾウはコントロールが難しく、緊急時の迅速なコントロールと安全の確保を可能にするため、足首に鎖をつなげておく方法が採られています。鎖はまた、足や爪の手入れや、獣医による健康診断時に安全にゾウを捕らえ、押さえつけておくうえでも重要です。

動物を拘束する様々な方法について、正しい方法と道具を用いれば、動物自身に危険は及びません。例えば、私たちは馬に対して馬具を、犬に対しては首輪を、安全に、かつ人道的にコントロールするために用いています。また、鎖の長さも重要になります。ゾウ同士のふれあいを可能にするだけでなく、ゾウ自身がプライベートな空間を確保することも可能にするからです。一方でまだ集団生活に慣れていないゾウは、時おり癡猛になり、他のゾウに危険を及ぼすこともあります。夜間、長い鎖でゾウの脚をつないでおくことは、ゾウが食事を取ったり、リフレッシュのために周囲の森を歩き回ることを可能にします。フェンスや厩は、適切な建設がなされなかった場合、ゾウに危険を及ぼす場合があります。

鎖は、ケガを回避するために適切に装着される必要があり、長時間、例えば日中は使用するべきではありません。しかし現実には、日中の長い間、短い鎖でつないでおくことがままあります。エレファント・キャンプは、こうした管理方法を改善するために、質問や提案に耳を傾けるべきでしょう。ゾウの管理上、鎖の代わりに石灰や鉄を利用した他の方法もありますが、費用が高つくために、ほとんどの観光用エレファント・キャンプでは実用化できないのが現状です。

2 どうして踊っているようなポーズをとるゾウがいるんですか？

こうした行動は反復行動と呼ばれています。これは、動物たちが日常的な動作を制限された時、あいまいな動作を繰り返すかたちで現れる症状です。時間や食事の制限、食事間の休憩時間が長いなど、退屈な環境に身を置く動物によく起こる現象でもあります。また、群れからはぐれてしまったゾウ、ゾウの社会からはじき出されたゾウ、あるいは短い鎖につながれるなど、ストレスの溜まる環境にいるゾウは、頭を揺らし、弧を描きながら揺さぶる動きをしがちです。反復行動がみられる時点で、そのゾウのクセになってしまっているために、治療は難しいものになります。そのため、反復行動を引き起こすストレス要因の改善を図ったとしても、症状は治りません。

もし踊っているような動作をするゾウを見かけた場合、そのゾウが、現時点でストレスの多い環境にいるとは限りません。ただ、こうした動作はゾウの脚と首に、長期的にみると影響を及ぼします。ゆえにゾウが、通常の身体動作ができるよう、手助けするのが望ましいです。もしこうした反復行動を見かけた場合は、エレファント・キャンプの管理責任者に対処法があるかどうか、尋ねるのが良いでしょう。

3 かぎ棒 (Bullhook / Hook) はなぜ必要なんですか？

ゾウを調教するための道具であるかぎ棒 (Bullhook/ Hook) は木製の長柄に、カーブのかかった鉤を先端に取り付けている調教具で、ゾウ使いが、ゾウとコンタクトを取りながら飼育するために使います。かぎ棒は、ゾウ使いとゾウ双方の安全を守り、必要に応じた行動をゾウにとらせるために、常に携帯しておく必要があります。かぎ棒は何千年も前から、緊急時 (威嚇やゾウ同士の戦闘)、あるいはゾウ自身に危険が及びうる状況、例えばごみの誤飲などの事態に際して、ゾウをコントロールするために用いられてきました。また、ゾウが怯えたり驚いたりした時、ゾウをコントロールし、周囲の安全を守るためにかぎ棒を使うこともあります。もしかぎ棒を携帯していないと、ゾウや周囲の人々が危険に晒される可能性があります。一方で不適切な道具、例えばナイフや槍を、ゾウの調教に使用することは、ゾウに危険やケガをもたらす可能性があります。一部のゾウ使いは釘のみをカバンの中に入れて携帯しています。これではゾウをコントロールするには不十分ですが、かけ声のみで調教している限りにおいて、観光客に好印象に与えることができます。かぎ棒の利点は、ゾウ使いが命令を送るとき、安全を確保できる点にあります。かけ声など、他の方法でゾウを複数同時に調教することが出来たとしても、観光客とゾウが密集しているときなど、緊急事態が発生する場合に備えてかぎ棒を携帯しないというのは極めて危険です。

また、かぎ棒が誤った方法、例えば罰を与えるために使われているのも事実です。かぎ棒は正しくは、ゾウ使いに自信と、安全にゾウをコントロールする術を与える、調教訓練のための道具です。もし調教師がエレファント・キャンプ内において不適切なかたちでかぎ棒を使用しているの見かけた場合、責任者に知らせることが望ましいです。

4 ゾウはどうやって調教を受けるんですか？

パーチャーンとは何ですか？

人間の手によって育てられているゾウは、人間の命令を理解し、獣医による検診や治療を受けるため、例外なく一定程度の訓練を受ける必要があります。人間の手元でありながらゾウに訓練を施さないのは、責任を欠いた行為ともいえます。過去、野生のゾウ捕獲が横行していた時代、ゾウは残忍なやりかたによって訓練されていました。野生のゾウは人間と過ごしたことが無いからです。インターネット上では、「パーチャーン」と呼ばれる映像が流れています。これはゾウの意志を折り、人間の命令に従わせるため、ゾウを柵で囲って行動範囲を制限し精神的に疲弊させるという、残虐な調教法を映した古い映像です。今ではこうしたやり方は好まれません。

一方、タイ北部で「パーチャーン」はこうした意味合いではなく、とある儀礼を指します。子ゾウの親離れの儀礼を意味し、これは東南アジア全土において様々な名前の下で執り行われています。この儀礼はどうかたちにせよ、子ゾウの調教訓練を始める前に行う重要な儀礼で、精霊に人間とゾウ双方の安全を祈願するため行われます。現在、人間のもとで生まれ、人間の手で育てられている子ゾウは、生まれた時から訓練を受けています。そしてゾウの飼い主の多くは、慈しみながら人道的な訓練を施すようにと、考えを改めつつあります。

観光客は、どうやってゾウを訓練しているのかエレファント・キャンプの責任者に尋ね、好ましい方法で訓練を施しているエレファント・キャンプを選択して観光するのがいいでしょう。

5 ゾウは絶滅寸前なんですか？

野生動物の生息数とその状態を評価する規格である国際自然保護連合（International Union for Conservation of Nature : IUCN）のレッドリストによると、アフリカゾウは危急種（vulnerable）に、アジアゾウは絶滅危惧種（endangered）に指定されています。現在、野生のアフリカゾウはアフリカ大陸の37か国に45万頭ほど生息しているといわれていますが、野生のアジアゾウは世界の13か国に、5万頭に満たない数が残されているのみです。そのうち、60%がインドに生息しているといわれています。もし私たち人間が、森林エリアを保護し、拡大することができれば、野生のゾウの生息数は増加すると期待されています。

6 全てのゾウは、自由を享受するべきでしょうか？

人間の手によって育てられたゾウは、自然に帰ることができるのでしょうか？

ゾウは例外なく自然の中の自由な環境にいるべきですが、人間の数が増え、ゾウの居場所を奪ったことで、野生のゾウに適した環境が不足するようになりました。したがって、アジアだけでも 15,000 頭以上いるとされる飼育されたゾウを全て自然に帰すのは、現実的な方策ではありません。

人間の手で育てられたゾウを自然に帰すには、複雑で難しいプロセスを踏みます。自然の生息環境が不足している以外にも、問題を引き起こす危険があります。人間の手によって育てられたゾウは、人間に馴れ親しんでいるがゆえに、野生のゾウの群れに何らかの病原体を持ち込む可能性があり得るからです。

人間の手で飼育されたゾウは、世界規模で、ゾウの生息数を維持するための保険ともなります。自然環境の変化や人間が引き起こす変化によって、生息数が減少する危険をつねに抱えているためです。人々に正しい知識と理解を与え、人とゾウがふれあえる場所を用意することは、ゾウとゾウの生息環境により関心を向けることにもつながるでしょう。

7 ズウのショーは、ゾウに悪い影響を与えますか？

正しい方法でゾウを調教し、訓練を積んでいる限りにおいて、ゾウのショーは、ゾウ自身に悪影響を及ぼすものではありません。ショーの質を向上させ倫理を遵守することは、ゾウの健康にも好影響を及ぼします。ゾウにとってちょうど良い運動にもなり、精神的なリフレッシュにもなるからです。ゾウ使いを鼻で持ち上げたり、丸太を運ぶなどの運動は、ゾウの体力強化にもなります。サッカーや絵描きは動作の速さと正確さを向上させます。ゾウ使いからの興味関心を引き、ご褒美としてエサにもありつけるため、たいていのゾウは喜んで訓練に参加します。ただ、二足歩行や直立姿勢での座立は、ゾウにとって不自然な動作・姿勢であるゆえに健康を損なう可能性があり、好ましくない運動だと言えます。

良いエレファント・キャンプは、それぞれ個体のゾウに適した活動を意識するべきです。ゾウのショーは、それが科学的に証明された正しい情報と知識を観客に与え、健康体かつ正しい調教方法を施したゾウがいる限りにおいて、エレファント・キャンプに評判と利益を呼び込むものとなります。

8 ズウは毎日、歩行を含めてどの程度運動しないといけないんですか？

まず野生のゾウにとって、毎日の歩行量は生息環境によって異なります。アジアゾウは、水場とエサの確保のために、一日当たり 3~20 キロ歩きます。ゾウの群れは、30~300 k m²のなわばりを、季節ごとの新鮮な食糧を求めて歩き回ります。

一方、飼育されているゾウはそれほど歩きません。人間によって十分な水と食料を与えられているため、歩くことを必要としないためです。ゆえに、こうしたゾウに運動をさせることは重要となります。例えばキャンプ内を歩かせたり、森へ連れて行ったり、柔らかい地面の上を長距離歩かせることなど、習慣的な運動はゾウの身体や消化器官、脚や首の状態にとって重要であり、肥満予防にもなります。運動の習慣化はその他にも、ゾウが飽きたり、暴力的になったりすることを防ぎ、ゾウの生活の質の向上にもつながります。

9 ゾウは、人間に近付き、ふれあうことが好きなんですか？

飼われているゾウの多くは人間に馴れており、人間がエサをご褒美として与えるという事を学習しています。また、野生のゾウの一部には、危険を承知でエサのために人間に近付いてくる個体すらあり、人間と共生しているゾウの群れに身を置くことを好んでいるようにもみえるゾウもまたいます。しかし、人間に対して警戒心を抱いているゾウがいることもまた事実です。ゆえにゾウに近づく際は、常に注意を怠らず、ゾウ使いの管理のもとで行われるべきです。

10 ゾウによくある健康上の問題には何がありますか？

飼育されているゾウの健康上の問題の多くは、劣悪な飼育環境に起因します。ケガのなかには、「イエン」と呼ばれるゾウの背中に載せる長椅子が、ゾウの身体にフィットしないことから生まれるものもあります。関節痛やかぎ棒の誤った使用法による傷、脚にかかわる問題、例えば、できものや化膿、爪割れ、足裏の傷など、こうしたケガの数々は、管理しているエレファント・キャンプ側が怠慢であることを示しています。また、健康上の問題は質の悪い食事や食事量そのものの不足、あるいはカロリーが高すぎる食事を与えるなど、粗悪な食事環境から生まれることもあります。例えばバナナ、サトウキビはゾウの肥満の一因となります。また、日陰や雨よけがなかったり、粉塵が多いエレファント・キャンプでは、ゾウの目の問題が散見されます。それ以外の健康上の問題は、ウイルスに感染し、適切な治療を欠いたことから発生することが多いです。口蹄疫、ウイルス感染による天然痘などの皮膚病、結核、ゾウヘルペスや、あるいは慢性的な関節痛や足痛などの感染症以外のケガ・病気は、治療を施さないと死に至る場合もあります。

11 サンクチュアリと呼ばれる施設には、こういった設備が整っているのですか？

サンクチュアリは、野生動物が繁殖可能で、安全かつ平和に暮らせるエリアを指します。ゾウのためのサンクチュアリ設置は、人間による干渉をできる限り最小限にとどめた状況下で、ゾウに自由で安全な居住エリアを与えるという理念のもと行われています。この理念は、十分な食糧の供給源を含めた、サンクチュアリ設置に適した広大な土地が確保されている状況下で実現可能となります。ゾウは一頭当たり一日 250 キロの食糧を消費し、また、コントロールが効かないゾウが、しばしば周囲のゾウや、ゾウ使いや観光客に対しても危険を及ぼすことがあるためです。サンクチュアリ内にいるゾウは、完全に野生化はしていないため、人間による調教がある程度必要となります。かぎ棒などの調教道具の使用を許可していないにもかかわらずゾウ使いや観光客とゾウが近づける場所は、非常に危険であるといえるでしょう。緊急時にゾウをコントロールする道具がないためです。サンクチュアリ内でゾウを飼育するスタイルは、バナナ、サトウキビなどの高カロリーな食事や、ご褒美としてエサを与えたり、十分な調教（運動）を受けていないがゆえ、ゾウ自身が基準値を超えた肥満体になりやすいです。加えて、獣医による十分な健康診断を受けることも難しく、サンクチュアリ内のゾウの健康管理は、対処が難しい問題となっています。

サンクチュアリという用語自体、ゾウを飼育する施設・団体が他との飼育モデルの差異化を図るために誤用することがよくあります。現在でも、東南アジアにおいて本来の意味合いで「サンクチュアリ」と名づけるに値するクオリティをもったエレファント・キャンプは1つとしてありません。どのような形態でエレファント・キャンプを運営するにしても、ゾウを慈しみ育て、ゾウの幸せを考え、それぞれ性格の違う個体のゾウに向き合うことを意識することが重要となります。

12 東南アジアにおけるゾウの繁栄のために、何ができますか？

私たちにできることは、例えばタイの観光・スポーツ省のような政府機関から正式な認可を取得したエレファント・キャンプや、あるいは自然環境含め、ゾウを飼育するに足りるポリシーと運営規則をもつエレファント・キャンプを選択し行くことです。何か疑問がある場合にはエレファント・キャンプの従業員に遠慮なく尋ねるようにしてください。良いエレファント・キャンプであれば、喜んであなたの質問に答えてくれるでしょう。ツアープログラムについては、エレファント・キャンプで直接申し込むか、信頼できるエージェンシーを通して申し込んで下さい。もしプログラムのなかにゾウたちとふれあう活動が組み込まれている場合は、行き先のエレファント・キャンプの情報をよく吟味し、そこが本当にゾウたちの幸せを考えている良いエレファント・キャンプなのか、下調べをしてください。

エレファント・キャンプへの観光を放棄することが正解なのではありません。これは、ゾウとゾウ使いに良い福利厚生を保障しているエレファント・キャンプに対して、フェアではありません。

13 ゾウが幸せかどうか、どうやって測ることができますか？

動物が幸せを感じているのかそうでないのか、計測することは難しいです。動物の感情や情緒は、人間のそれとは異なるからです。人間同士でさえも、「幸せ」の定義は、説明することが難しい問題です。ただ、動物が幸せを感じていると分かるある種の行動、例えば何かを探り歩いたり、あるいは遊びに興じる行動は、ゾウが幸せな状態にあると分かる良いサインになります。また、ゾウが群れを成しているときに、幸せな状態にあるゾウを最も見つけやすいです。食事のときや水浴び、群れのなかの子ゾウの面倒を見たり、コミュニケーションのために声を発したり、ゾウたちのふれあいを見ることが出来ます。良いエレファント・キャンプは、ゾウたちがこうした行動をとる機会に溢れています。

14 ゾウは何キロの重さまで背負えるのでしょうか？

現在のところ、ゾウが一体何キロまでの重量を背負えるのか、実証されていません。いずれにせよ、馬や犬は、自重の20-25%までの重量を背負えることが明らかになっています。もし平均体重約3トンを誇るゾウにこのデータを適用するならば、約600キロまでの重量に耐えることができます。さらにゾウの前後の脚の長い骨は、骨髄がない代わりに骨の密度が高く、とくに強靱です。これは、ゾウが他の動物と比較しても重い荷物に耐えられることを示しています。ゾウの背中に鞍を設置する際は、クッションを挟み、脊柱を圧迫しないように正しく置くべきです。ゾウの労働時間と歩行路が良く管理されている状況下においては、人間を背中に載せること自体、ゾウに危害を与えるものではありません。鞍の上に2人の大人を座らせても、ゾウの自重の10%未満であり、鞍を使わずに1~2人の大人を背中に座らせた場合はゾウの自重の4%にも満たないためです。

15 どうして私たち人間はゾウを飼うのですか？ 彼らはどこから来たのですか？

人間とアジアゾウの交流は、4000年以上にもわたります。過去、ゾウは戦争兵器として、木材の輸送手段として、あるいは統治者のシンボルとして、儀礼・典礼などにも用いられてきました。こうしたゾウは職業的なハンターによって捕獲された野生のゾウであり、それから調教を受け、特定の用途に応じて飼育されるか、あるいは転売されます。

現在、野生のゾウの捕獲は、事前許可を取得しないと法律違反となります。ゆえに人々は、頭数を確保するため、飼育している場においてゾウを繁殖させてきました。しかし、未だに法律違反の密猟や密売がみられます。法律に準拠したゾウの登録制度や売買制度は、ゾウに関する違法ビジネスを防ぐうえで非常に重要となります。

野生のゾウ捕獲に関係しているのかどうか、ゾウの登録に関して法律に則った運営規則があるのかどうか、エレファント・キャンプに関する情報をチェックしてください。